ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

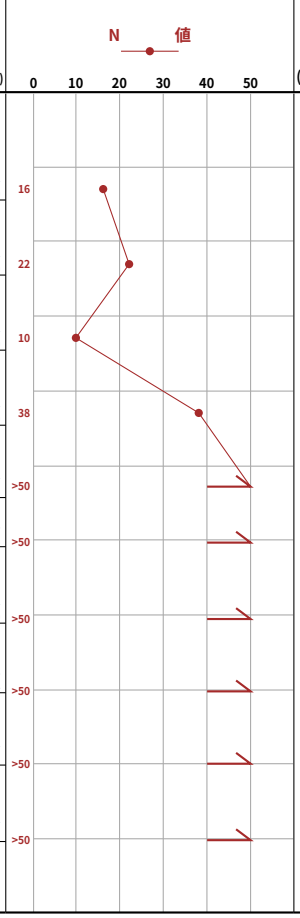
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.36B-2	調査位置				北　緯	36 ° 42 ’ 09.0000 ”
発注機関	栃木県烏山土木事務所　整備部			調査期間	2010-03-16 ～ 2010-03-18	東　経	140 ° 10 ’ 28.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	115.56 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	10.03 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	114.76	0.80	0.80		礫混じり粘土 (CH-G)	暗褐		中位	上部10cmは腐植土である 含水比・粘性中位		
1 2 3 4	111.16	3.60	4.40		粘土混じり砂礫 (GS-C)	淡褐	緩い		崩積土である 含水比やや低く粘性小さい φ5～50mmの角礫が主体である マトリックスは粒子不均一な砂と粘土でなる 2.70～3.60m間は粘土分を多く混入 3.90m付近から暗灰色を呈す 4.00～4.40m間は含水量が多い		
5	109.66	1.50	5.90		粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐	密な		φ5～50mmの角礫(頁岩・砂岩)が主体 地層に明瞭な乱れがないことから砂岩の強風化部である可能性が高い		03/16 5.45
6 7 8 9 10	105.53	4.13	10.03		風化頁岩 (Sh)	暗灰～黒灰			頁岩であるが砂岩が優勢部分を断続的に挟む 風化により軟質化しており割れ目が非常に多い。 全体に礫状～岩片状コアを呈し，所々5～15cmの短柱状コアでなる 5.7～6.3m，7.8～8.15m，8.9～9.0mは風化が著しく礫状～細礫状コアを呈す 9.0m以深やや新鮮になり，所々柱状コアで採取できる		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	6	6	16／30	16
1.45					
2.15	8	7	7	22／30	22
2.45					
3.15	4	3	3	10／30	10
3.45					
4.15	4	8	26	38／30	38
4.45					
5.15	13	22	15／8	50／28	>50
5.43					
6.00	50／8			50／8	>50
6.08					
7.00	50			50／10	>50
7.10					
8.00	50／4			50／4	>50
8.04					
9.00	50／1			50／1	>50
9.01					
10.00	50／3			50／3	>50
10.03					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
		3.15～3.45	36B-2	㊀		03/16 03/17 03/18